

今、わたしたちが住む地球には、いろいろな環境問題が起きています。

環境問題について調べて、自分にできることを実行しましょう。

海をよそしていたのは、私たちがごみだった

2050年には、海のごみが魚より多くなる！

海のごみは、日本だけでなく、世界中でふえています。中でも、一番問題になっているのが、プラスチックのごみです。

「このままプラスチックのごみがふえ続けると、2050年には海の中のプラスチックごみの量が、魚の量よりも多くなってしまいます。」という研究が発表されて、世界の人々をおどらせています。

なぜ、海のごみがふえているのでしょうか？



次のようなことが考えられます。

- 路上や車からポイ捨てされたごみ
- 川原に置き去りにされたごみ
- 屋外のごみ箱からあふれたごみ

こうしたごみが、風でとばされたり、雨で流されたりして、川に入り、最後は海に流れ着きます。

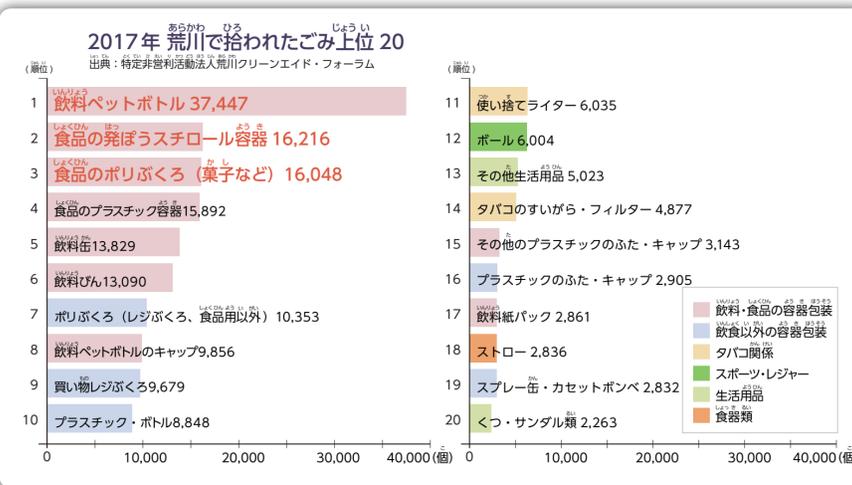


日本各地の川原や海岸でボランティアによるごみを拾う活動が行われていますが、回収が追いつかないのが現状です。



提供：クリーン・ビーチいしかわ

東京の川で見つかったいろいろなごみ。どんなごみがあるかな？



とうきょうと とりくみ 東京都の取組

◆海につながる川や、東京湾のごみを、船で回収しています。



東京湾のごみを回収中



川の水面を清そう中



回収されたいろいろなごみ

◆東京都では海ごみをへらす取組の一つとしてプラスチックストローに代わるアイデアを募集したり、紙ストローを試行したりしました。



試行使用した紙ストロー

海のごみは、生き物にどんなえいきょうをあたえているのかな？

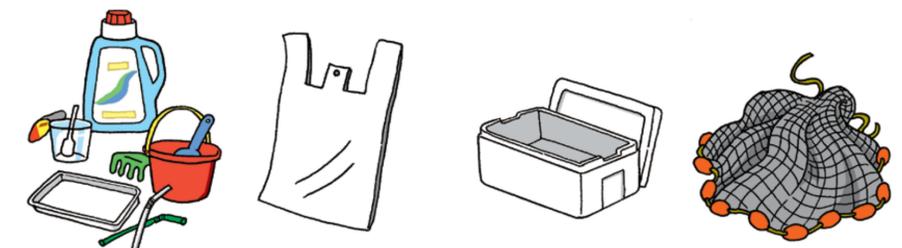
プラスチックや発泡スチロールのせいひんは、海に入ってもなかなかつかないため、海の生き物へのえいきょうが心配されます。われて小さくなりやすいので、生き物がエサとまちがえて飲みこんでしまうこともあります。



プラスチックなどのせいひんが体にかまってしまった動物
提供：一般社団法人 JEAN

死んだウミガメの胃から出てきたプラスチックごみなど
提供：一般社団法人 JEAN

- プラスチックせいひん
- レジぶくろ
- 発泡スチロール
- 漁もう



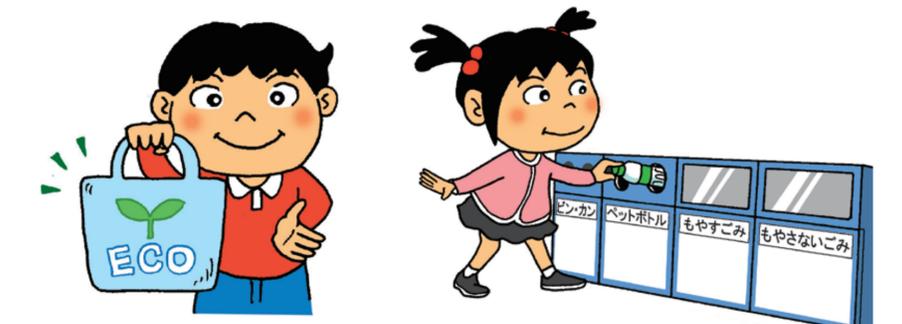
細くなった物を、鳥や魚がまちがえて食べてしまうことがある。

ウミガメが、クラゲとまちがえて食べてしまうことがある。

小さなかけらになると、拾えなくなる。魚や鳥などがまちがえて食べてしまうことがある。

生き物にかままり、動けなくなることもある。

海を守るために 自分にできることを考えてみよう



買い物をするときは、マイバッグをもっていき、レジぶくろをこたわろう

ごみを決められたルールにしたがって分別し、きちんとすてよう